

## Pick Up News

前期も終わり夏休み突入。充電して後期に備えて下さい。さて、今号と次号は「大学院特集」です。建築学科では約1割の学生が大学院に進学します。研究・設計の経験をさらに2年間積むことで、自身の成長が図れると同時に、建築実務で必要な知識・技術がさらに身につきます。就職の企業や職種の幅を広げるためにも有効です。大学院在学中に二級建築士の受験も可能で、今年も多くが学科試験を通過しています。さらに本学の大学院課程は「一級建築士受験に必要な「実務経験2年」の取得も可能な課程」として認定されています。必要科目の単位取得で、大学院修了後にすぐ一級建築士を受験することができる体制も整っています。RA、TAなど経済的な支援も充実。人生にとってかけがえのない2年間になることは間違いありません。少しでも興味を持った人は進学を強くおすすめします。

1. 大学院を志した理由
2. 大学院進学を決めた時期
3. 大学院で学んでの感想
4. 学部生へのメッセージ

1. もう少し構造について理解を深めたかったこと、実験に興味があったため。
2. 3年後期から4年前期の間。
3. まだ本格的に研究が始まっていないため、現状学部生時代と大差ない。
4. 学部生時代とは違った、教授の意外な一面をみることでできて楽しい。  
(碎研: 佐藤偉流)

1. 大学を卒業してすぐに社会に入るの自信も経験もなく、もっと専門知識を身に付けたいと思っていました。院生になると、自分の興味のある研究、自分の好きなことができることは最高です。
2. 学部3年生の頃、院生を目指して英語と数学などの基礎知識の復習を始めました。院生になって一番うれしいのは先生から研究や人生のことを学ぶことができることです。自分の意欲が強くなりました。「好き」であることが一番で、それに専念し、精力を注ぐことで着々と前に進んでいます。自分の一秒の努力が、一秒の収穫につながります。  
(渡辺研: 謝永航, 中国からの留学生)

1. 時間を得るため。大学院在学中であれば二級建築士資格取得や自分の研究などに時間をさけると思っていたから。また修士の方が企業入社後でも有利だと考えたため。
2. 3年生から4年生に進級するとき。
3. M1の時間は、講義も多く思っていたよりも自分の研究などに時間はさくことが出来ない。講義の内容としては受講するとうりでも自分自身のみならず講義をするという形に変化。講義数は少ないが講義のために準備する時間が増加する。資格取得を考えている人は自分で時間の使い方をしっかり管理しないと難しい。
4. 大学院に進学する際は単に自分の研究のために、時間をつくるために、といった考えでは厳しい。先生も言っていたが大学院での時間を第一に考え、生活する覚悟を持っているべき。  
(石井研: 青柳樹)

1. 社会に出るまでにより専門的な知識と技術を身に付けておきたかったため。
2. 3年生の冬休み。
3. ただ講義を聴くだけではなく、自分で調査したことを発表したり、意見を言う場が増えます。授業の準備に割く時間が増えて大変な時もありますが、有意義な時間が送れています。
4. 大学生生活は、社会に出るまでに好きなことができる、また自分が興味のあることを探ることができる時間です。もっと勉強してみたい内容が見つかったら、大学院進学も視野に入れてみては如何でしょうか。  
(石井研: 茂木公佳)

1. より専門的なことを学びながら資格取得するため。
2. 4年生の7月中旬。
3. 学部時代よりも内容の濃い講義や自分が講義する側になるなど様々な経験が出来ていると思います。
4. 大学院と聞くと未知の世界のように感じ不安になるかと思いますが、もっと勉強したい人・資格取得したい人・就職に悩んでいる人…様々な人が大学院にいます。少しでも興味がある人は進学してみるのもいいと思います。また、先生方との距離も近くなり学部時代よりも一層楽しい大学院生活になると思います。  
(渡辺研: 木村奈央)

1. 社会人として働きはじめたときに自分の知識や能力が不足していることを実感し大学院で学ぶことだと考えるようになり、大学院進学を決めました。
2. 入学前年の秋(建設会社勤務時)。
3. 建築に関しての知識が今までよりも広がり、多角的に物事を考えられるようになったと実感しています。
4. もし自分のなかで建築の知識に対して納得のいかない場合は大学院に進学することをお勧めいたします。  
(竹内研: 佐々木啓, 社会人を経験しての大学院入学)

1. 「研究者」になりたいため。
2. 3年生2月末。
3. 学部時代と比べて先生との距離が近くなり、より学びやすくなりました。
4. サークル活動やアルバイトなど課外活動に積極的に参加しよう!  
(石井研: 林瑞紀)

## 卒業生の現役実務者が講演 活躍知ってもらい意欲促す



東北工業大学工学部建築学科は、同学科の卒業生から実践的知識をオムニバス形式で学ぶ連続講義「建築プロフェッショナル論」を実施している。講師は、大手や地元の総合建設企業、組織・個人設計事務所、住宅メーカーなど幅広い分野の第一線で「プロフェッショナル」として活躍する現役の実務者が担当している。対象は同科の3年生。卒業生の活躍を知ってもらうことで、学業と資格取得への意欲向上を図るとともに、将来の進路を明確化していく時期に多種多様な現場の生の声で、進路の検討を後押しする。2018年度は、3年生140人が受講しており、4月から7月まで計14回の講座を開いた。このうち、7月9日は建築技術教育普及センターの角田正雄氏(元宮城県土木部次長技術担当)が「公務員・建築技術者・資格」をテーマに講演した一写真。

東北工大建築学科の「建築プロフェッショナル論」(必修)は学生からの評価が非常に高く、卒業生から生の声を聴くことができる講義で、将来の自身の進路を考えるきっかけになっています。

2018.08.03 建設通信新聞【東北】

## 民家再生活用ワーキンググループ MSKWG

は地域に現存する民家や集落について『見学、実測、掃除』などを通じて、実際に体験しながら楽しく学びを深めています。【小屋改修】仙台の生田地区に現存する小屋を地域の拠点として活用するためにスタートしました。大掃除、天井の取り外し、階段の設置、壁面の塗装などを地元の方や地元の大工さん協力のもと改修を進めています。【模型制作】加美町に現存する松本家住宅を対象に実測調査をもとに模型制作がスタートしました。新入生も参加し、鋭意制作中です。民家のイベント企画・運営、まち歩き企画なども行っています。(4年不破研 吉田鷹介)



民家での実測。模型製作につなげます



小屋改修 掃除～塗装、自分たちの手で進めています



4年 山口 凌平くん  
青森工業高校 出身

## Pick Up Student

私は高校生の頃から建築を学んできましたが、自分がどのような職に就きたいかはっきりしていなかったため、耐震設計など多くのことを学べる東北工業大学に進学し、建築の知識を身につけながら何をやりたいか見つけようと考えていました。入学してから3年以上経ち、大学生活で最も大切にしなければいけないと感じているのは人間関係です。同じ大学の友人だけでなく、色々な職業や他大学の人も、たくさんの方々とコミュニケーションをとることで充実した大学生活が送れていると感じています。残り少ない大学生活は、卒業研修など計画的に進め、今できることに真摯に取り組みたいです。



1年 富田 小春さん  
仙台城南高校 出身

## Pick Up Student

建築学科に入り早くも前期終了。初めは友人ができるのか、他の人に馴染めるか、不安なこともありましたが今では新しい生活にも慣れ、充実した日々を送っています。私は高校で物理や数学を詳しく学んで来なかったため、普段から講義に遅れ気味な所がありました。しかし、数学物理が得意な友人に教えてもらったり、学科での支援講座を受けることで、得意とまでは行きませんがある程度を克服することが出来たのです。もしかしたら、数学物理が苦手な建築学科に入るのには厳しいのではないかと考える方もいるかもしれませんが、大学にはきちんとその人に合わせた講座があり、学業に取り組める環境があります。なので今進路に悩んでいる方は、安心して建築学科を選んで頂きたいです。